



現場から（最近のニュースから）

自分を知る



受験シーズンが終わりました。希望していた学校に合格した人も、願いがかなわなかった人もいるでしょう。何度も不合格の通知を受けて自信を無くしてしまったと言っている人もいます。いま目の前で不合格をつきつけられて、悲しい気分になるのは当然です。しかし、よく現実を見てみると、本当に挫折なく、一流大学に合格し、人がうらやむほどの成績で卒業し、一流の国家試験にも合格した人は、その才能を発揮して楽しく生きているかということ、そうでもないのです。東京大学在学中に司法試験に合格し、「法学部における成績優秀者」として総長賞を受け、卒業後は財務省に入省と、だれもがうらやむほどの輝かしい経歴を持つ信州大学特任教授の山口真由さんは、社会に出てからは挫折の連続だったという記事がありました。

山口さんは、本好きで、読んだことを暗記するのも長けていたので、記憶力を生かして、希望通りの学校に進学し、高校の成績はトップ層で、東京大学では4年間「オール優」を取っていたそうです。ただ、それは、日本の学校教育が文章を読んでインプットすることで評価するからで、それに合う才能だったからだということです。大学卒業後に財務省に入省したそうですが、官僚に必要なのは、さまざまな業務を遂行することで、そのためにマルチタスクをこなさなければならなかったのに、それは苦手であまりできなかったそうです。それゆえ、完全にダメ出しされ続けて、自信をまったく失ったということです。そのあと、弁護士にキャリアチェンジしたそうですが、弁護士もリサーチ力より、考えて話す能力が重要だったので、そこでも落ちこぼれ状態だったそうです。そのあと、ハーバード・ロースクールに留学し、東京大学大学院を経て、教授となりコメンテーターをして、やっと自分の居場所を見つけたということでした。読む能力を最大限に生かした仕事か、研究者になっていたら迷子にならずにいただろうと言われていました。

そこで、子どもたちへのアドバイスとして「読む能力」だけではなく、人前で話すスキルをもつこと、コミュニケーション力を高めることを勧めておられます。学校教育で養われる力と、社会に出てから求められる力がまるで異なるということで、日本の教育への危惧しているということです。そして、自分が何者であるか、自分にはどんな能力があるのかをなるべく早く知った上で、それを徹底的に磨いていくことが必要だと言われていました。（3月8日東洋経済 ONLINE<山口真由が「成績優秀でも社会ではボンコツ」と苦しんだ学校と社会の「評価差」>より）

学力に縛られることなく、自分が何者で、どんな能力があるか分かり、その自分に合う学校、自分に合う仕事を見つけることは大切なことです。そのために、いろいろ試みている人も多いでしょう。しかし、なにかどこかうまくいかないまま、過ごしているのではないのでしょうか。それは、自分が何者なのか、どんな能力があるかを、自分の目や人の意見で見つけようとするからです。まず、人間がどんな存在で、なんのために生きていて、いま、どんな時代なのか、どのように世の中が流れているのかを見て行くべきでしょう。それが見えるとき、なにかができる、できないと関係なく、自分の存在理由が分かるようになります。人間が何であるのかということから、あなたの存在する理由を探ってみませんか。



救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあり、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快樂に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちが苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください